国有化闘争の背景

(6)

中小鉱の苦悩のりこえ「鉱員のヤマ」の伝統つらぬく

飯野鉱労組をたずねて

「国有化闘争の背景」シリーズは、すでに閉山した筑豊の諸鉱や新石炭政策によって閉山攻撃に直面した各ヤマの様子を紹介してきました。このシリーズは今回でおわりますが、最後に飯野鉱労組をたずねその闘いを紹介します。次号はいままでの総括として、「石炭情勢の現状と将来」を特集し、まとめにする予定です。（編集部）

課長のワビ状

飯野炭鉱春日坑のくりこみ場にはつぎのような掲示がしてあった。

発破災害についてお詫び

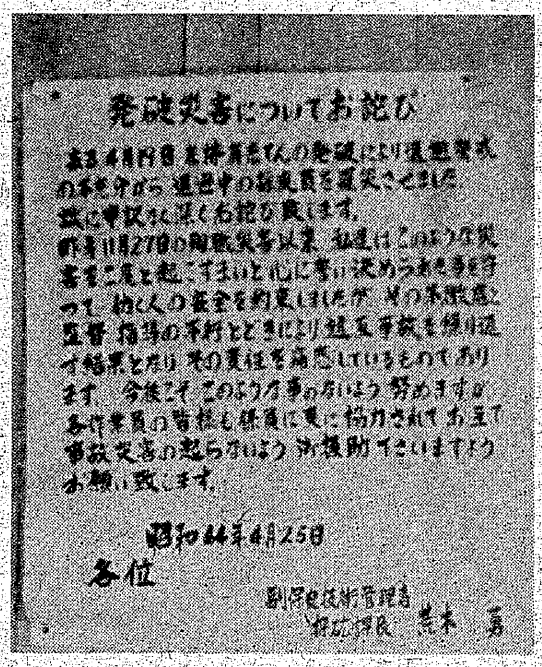
去る4月29日主婦会員さんの発破により通勤禁止の事故中から通勤中の組合員を罹災させました誠に申訳なく深くお詫び致します。

昭和44年2月の殉職災害以来、私達はこのような災害を二度と起こすまいと心に誓い決められたことを守って、私たちの安全を約束しましたが、その不徹底と監督、指導の不行ときにより遂に事故を繰り返す結果となり、その責任を痛感しているものであります。今後こそ、このような事のないよう努めますが各作業員の皆様も保安に更に協力されて事故災害のおこらないよう御援助下さいますようお願い致します。

昭和44年4月25日

各位

副保安技術管理者
採鉱課長　荒木　勇



くりこみ場に貼だされた採礦課長の「自己批判書」。三井の経営者にもみせたいものだ。

長崎県北松浦郡世知原町にある飯野炭鉱は組合員七百五十名（富永年夫組合長）、転員百十名、月産約三万四千トンのヤマである。

飯野鉱労組は戦後一貫して組合の組織の強化と転場の民主化闘争をつづけてきた。

鉱員ヤマ

昭和二十一年の組合結成以来、二十二年には百日スト、二十五年には有名な松浦争議などの歴史的な闘いをへて闘いの伝統をきづきあげてきた。

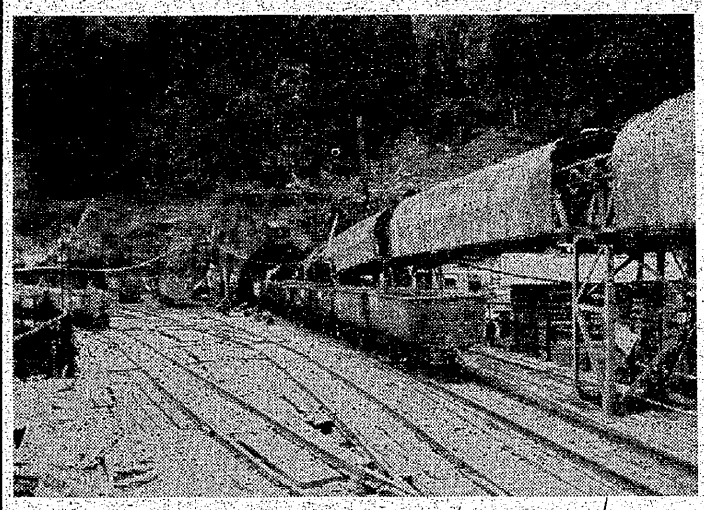
昭和二十五年には組織分裂をし、二十七年に統一するまで会社の分裂工作にくるしめられたが、昭和三十一年ごろまでには転場闘争を中心に、ほぼ分裂以前の体制をつくり上げていった。

昭和三十四年、三十六年、三十八年と三回にわたって合理化攻撃をうけ千五百名の組合員が七百五十名と半減したが、「鉱員ヤマ」とよばれてきた転場民主化闘争の伝統はくずれず、今日までつづいている。

前記の「課長の自己批判書」はこのような闘いの中から出されたものであった。

飯野鉱の周辺には古くから全炭鉱系のヤマが多かったが、それらは飯野の「鉱員ヤマ」とくらべて「転員ヤマ」とよばれた。

他山から飯野にうつってきた人たちは「あんなに転員に文句をいって大丈夫か？」とおどろき、組合の主張が通っていく飯野に定住するようになるという。



飯野炭鉱春日坑の坑口

毎日がハリのムシロ

中小鉱としての運動に苦心

長崎県評副議長としても、また世知原町教育委員としても多忙な富永組合長は、今年で組合長八期目である。以下は飯野労組の現状と問題点のインタビューである。

――組合としての課題は？

【富永組合長】どこでも中小鉱は同じですが、本当に飯野は閉山しないのか、いつまでつづくのかということが一番の組合員の不安です。四月十五日の政府回答（閉山する企業の労働者には退転金を一〇〇パーセント保障するという決定）にしても『よくあそこまで闘った』ということが組合員の実感です。過去三回の希望退転で支払われた退転金の借金が残された者にのしかかり、その上閉山したときは七五パーセントしか退転金を払わないのではやりきれんという実感だからです。明治や杵島の闘いには非常に感心が高かった。北松炭田でも二月には周辺の四鉱がつぶれ、筑豊方面でも閉山があいつぐニュースが新聞などで伝わると、われわれは毎日がハリのむしろに座っているような感じで、全組合員がその日の出炭量にまで気をくばるといった状態です。

富永組合長

国有化以外に生き残れない

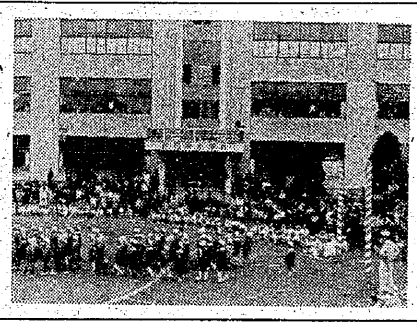
――国有化闘争についてはどう考えておられますか？

【富永組合長】私たちが三月十日から十二日間にわたっておこなった地域座談会では『石炭産業は存続するのか』『昭和四十八年以降はどうなるのか』などの切実な疑問がだされました。飯野資本は長期計画をたて、可採炭量もありますが、この炭鉱が生き残れるか否かはエネルギーの中での石炭の位置づけ、体制問題に左右されます。これが三井などとちがうところで、やはり炭労の方針でねばり強く国有化闘争をやりぬく以外にないという切実な気持です。

組合に主導権

――組合と会社の関係は？

【富永組合長】転場分会単位での対会社交渉は毎日のようにおこなわれており、どんなに転制に抗議・要求をしても、差別や偏見をもたせることがない位の組合の主導権はもっています。五月一日には百二十名で青年部も結成する予定です（うち独身者八十一名）。今後とも転場の民主化と安定転場の確立へむけて闘う覚悟です。



世知原小学校の運動会。まるで炭鉱の家族運動会だ。

私の書棚

金属労働者のド根性を描く「戦列くんで」

こんど、全国金属大興電機支部編のたたかいの記録『戦列くんで』という本が出た。

本書の内容は二カ月にわたる争議の記録のなまなましい報告からはじまって、ドレイ工場の出現、安保闘争を契機にたたかいの芽ばえ、低賃金打破へ怒りの決起、ストライキ突入、組合丸拘えの組織攻撃と首切り合理化へ、分裂組合役員が第二組合旗上げ、犠牲者を就労させながら前進、ついに勝利へ――三池労組員にこの本は必ずやたくさんの教訓を示してくれることを信じる。

（編集部）

本書は労働旬教社刊で三九〇円の象徴だ。しかし、金受けの中には金券が一割も入っており、賞与も自費でかえ、期末手当の分割払いにも労金立替えさえできないような中小炭鉱の実態を考えてくれたことがあるだろうか？

たしかに、三池の闘争は鋭いが三井鉱山は生き残るという安心感が先に立っているのではないか。三池の人の話は、われわれがきくと金持の息子の話をきいているようだ。

「おれについてこい」？

――炭労の中でも三池が発言すればみんなダマってきいている。しかし、案外ハラの中では笑っている。三池は「自分だけは別格だ」というエリート意識があるのではないか。

――三池はおれたちがこれだけ苦しんでいるので炭労が三池のいうことを受け入れてくれるのは当然と思っているのではないか？しかし、闘争の歴史をハナにかけるような組合ではダレもついてこないゾ。

統一をかちとる道を

――闘争後ひさしぶりに三池にオルグにいった。ちょうどCO患者の家族や遺族が座り込んでいた。一緒に抗議にも行ったが、会社側をバトウするばかりのように感じた。鋭い抗議も必要だがそれだけではなく、なにかもう一つ大きく相手をつつみこむような気持があっていいのではないか。

三池の人たちは三池だけでしかわからない怒りがあるだろうが、あくまでも悩みや苦しみを正々堂々と徹底して訴える方が転員や第二組合員をだきこむ道ではないか。CO患者や遺族の苦しみはわかるが、あと一歩配慮した方がいいのではないか。

――第一・第二に分裂した原因はたしかにあったろうが、仇く者の気持の上にたって統一への努力をしてもらいたい。

それでも三池は……

――それでも三池はやっぱり強く統制もとれ。おどろくほど頑張りぬいている。それは認める。しかし同じことをやれといわれると尻込みする。

組合員の声基盤に闘いをすすめる

飯野鉱労組には親子三代飯野炭鉱に仇くという人が三分の一、昭和三十年ごろ入社の人が三の分一この二・三年入社という若い人が三分の一という人員構成になっている。

炭鉱としてはめずらしく若々しい労働者をふくめて、飯野労組は春闘の中で三百五十項目の要求闘争をくりひろげている。石炭政策を粉砕し、国有化闘争を闘いぬく同志として飯野の仲間との連帯をさらにかためよう。

お願い!!

飯野の仲間から素直な意見がだされています。三池の素直な返事をみんなでだしましょう。手紙で交流を！

あて先＝長崎県北松浦郡世知原町
飯野炭鉱労働組合

〈詩〉抗議スト

宮浦　平田　光男

保安を守れ
あたりまえの事を
叫んだ仲間を
不当に処分した
俺達
心から怒りがわく
三池全山抗議の時限スト
新労の仲間達
いやいやながら
後方が来るまで
切羽で炭を掘らされる
俺達が抗議ストを打つたび
人事が
新労の仇く仲間を
出勤トクレイで走り回る

〈詩〉

〈詩〉